

平成29年度第3回 高砂市文化振興審議会

日 時 平成30年2月15日(木) 10:00～  
場 所 高砂市役所南庁舎2階 会議室2

出席委員	会 長	田端 和彦	委 員	唐津 哲男
	委 員	岩見 一美	委 員	高橋 賢吉
	委 員	原 英俊	委 員	前田 栄一
	委 員	天野富美男	委 員	堀田 真弘
	委 員	渡邊 紀子	委 員	松本 克英

出席事務局職員

健康文化部長	中安 正人
くらしと文化室長	田川 真紀
文化スポーツ課長	森岡 修平
文化スポーツ課主幹	前川 吉也
文化スポーツ課係長	山野 晃路
文化スポーツ課	大塚 敦子

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ
- 3 議 題
  - (1) パブリックコメント結果について
  - (2) 高砂市文化振興基本方針(改訂版)(答申案)について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

○事務局

そうしましたら皆さんこんにちは。定刻となりましたのでただ今より高砂市文化振興審議会を開催させていただきたいと思っております。まずオープニングといたしまして、恒例の謡曲「高砂」の全員合唱を行いたいと思っております。全員ご起立のほどよろしくお願いいたします。

(謡曲「高砂」合唱)

○事務局

ありがとうございました。ご着席ください。これより座って失礼をいたします。

審議会を進行する前に当審議会の公開についてですが、高砂市文化振興審議会の運営に関する規定に基づき、公開とさせていただいておりますが、本日傍聴希望者はございません。さて、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席賜りありがとうございます。まずお手元の資料のご確認をしていきたいと思っております。

(資料確認)

それでは次第により進めさせていただきたいと存じます。

まず開催にあたりまして、健康文化部長よりご挨拶を申し上げます。

○事務局

(部長 あいさつ)

○事務局

ありがとうございました。

それでは審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議は成立しておりますことをここでご報告いたします。

それでは次に3の議題のほうにうつりたいと思っております。これより議事進行は議長にお譲りしたいと思っております。議長よろしくお願いいたします。

○議長

どうも皆さんおはようございます。本当に年度末お忙しいところ、朝からお集まりいただきましてどうもありがとうございました。先ほど事務局のほうからございましたように今皆様のお力もあり、あるいは市民の皆様からのご意見もお聞きしながら、改訂版の策定に努めてまいりました。いよいよもう今日が恐らく最後の調整ということになるかと思っております。今日はパブリックコメントのお話を聞いたあと、また皆様に事前に送付させていただいておりますけども、改訂版案のほうを見ていただいて、まだまだ手直ししないといけないところがあれば、ぜひともご意見を賜りたいというふうに思っております。

文化行政に関しましては、文化、芸術行政といってもいいかもしれませんが、非常に観光でございますとか、今後のいわゆる日本の強みであるコンテンツという部分での発信というところも含めて、非常に注目をされてるところでございます。一方でこれをどこまで国家が、あるいは政府が後押しをするのかということについて、

さまざまな疑問もされたりすると、いうところもございます。例えばいわゆるコンテンツを海外に売り出すということで、肝いりで政府などもやってる事業もございますけども、これに対してもどの程度効果があったのかということのを常に問われることになります。これまで文化行政というのはある意味ちょっとマイナーだったところがあったわけですが、今やそういう意味でいくと、これから本当にある意味政策の、産業政策といってもいい、そういった政策のメインストリームに出てくるということになってまいりますと、いよいよ政策効果はどの程度あったのかといったことも問われるのかなと思います。文化というのは教育でございますとか、まちづくり、そういったものにもすごく密接にかかわることがようやくご理解をいただいたところでございますので、これを機会に効果的な、あるいは市民に見えるようなそういった成果があって、あ、なるほど高砂市はこういった方針まちづくり、あるいは文化を基盤としたまちづくり、文化を基盤とした教育、人づくりをやってるんだということがわかるような、そのような指針になればなというふうに思っております。皆さんの議論も忌憚のないご意見を賜ればと思いますので、よろしく願いをいたします。

それでは議題についてでございますけども、先ほど申しましたパブリックコメントの結果について、まず事務局のほうからご説明をお願いいたします。

#### ○事務局

それではまず資料1のパブリックコメント意見募集の結果についてでございますが、1ページから7ページに提出された意見の概要とそれに対する考え方、7ページの下段のほうで、2、意見の提出数をお示しさせていただいております。パブリックコメントは平成29年11月20日から12月19日まで実施し、11人28件のご意見をいただきました。この結果につきましては、事前に皆さんに公表案を送らせていただいておりますので、その後委員の皆様から特にご意見等はございませんでしたので、一応この案でホームページで公表をさせていただきたいと考えております。

また教育委員会に対し、平成29年11月24日に文化振興基本方針改訂版、素案に関する意見聴取を行いまして、その後12月19日付で異議なしとの回答をいただいておりますので、あわせてご報告いたします。

説明は以上でございます。

#### ○議長

ありがとうございました。今ご説明ございました。事前に皆様にお送りした際には特にご意見は賜っていないんですけども、今日改めてご覧になられて、ちょっとこのあたりどうなのかとか、ご質問なりご意見があればと思います。

見ていただいたらわかりますように、ちょっと字句の訂正等は直接反映させていただいておりますけども、それ以外の方針にかかわるようなところに関しては特に

方針を大きく変えなければならないとか、方向性を考えなきゃいけないような、そういったご指摘はあまりなくて、むしろ具体的な施策の部分に関するご提言といえますか、ご提案が結構出てきたなというのはちょっと感じたところではございません。

ある意味しっかり読んでいただいているからこそ、具体的にこういうものがあるんじゃないかというご提案でもあろうかなと思います。今後行政のほうでもこのあたりも含めて対応いただけると思うんですけども、そのあたりについてでも結構でございますので、何かご意見があれば、この機会にいただければと思いますがいかがでございましょうか。

○委員

全然意見と違うんですけど。3ページの1番上の野路菊の字が間違ってます。

○議長

えっとどこですかね、3ページの1番上。そうですね、ごめんなさい。すみませんかえときます。ありがとうございます。野路菊の「ち」が「ぢ」ですね、ありがとうございます。

○委員

1ページの3番目にある名称どうこうって書いてあるね、芸術推進とか、検討するとなつとるけど、これはどういう方向になりそうなんですか。

○事務局

これは法律のほうで改正され文化芸術基本法になったのとあわせて文化振興基本方針とあったものが、法律改正で推進基本計画という名前になったと思うんですけども、この辺につきましては、また議論があったかと思うんですけど、条例改正のときもあったと思うんですけども、今の高砂市の基本方針は基本方針という形で10年間で計画してますので、一応その10年計画を進めていきたいというふうに考えてます。今年度は見直しだったんですけど、次また新たな基本計画を新規につくるときはこの法改正を受けた形で文化芸術推進基本計画という形で考えないといけないと思うんですけども、それはまた条例のほうの改正ともかかわると思いますので、条例の改正とあわせてこの基本計画も議論、検討というのを進めていかないといけないかなというふうに思っています。

○委員

だから今回はこのままいくということ、そういうことやね。

○事務局

今回はこのままです。

○議長

今回はだから第5条の市長は文化振興によるまちづくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため文化推進基本方針と、こう書いてますので、これが改定さ

れるとなかなか、改定しない限りちょっと・・・はできないということで、さっき  
言われました条例の改定も含めてという、こういうことになってます。

○委員

はい、わかりました。

○会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか、何か。

○委員

内容ではないのですが、パブリックコメントの結果についての「市の考え方」の  
ところに述べられていることは、文化スポーツ課だけで解決というか意見を書かれ  
たのではなくて、観光であるとか、産業振興であるとか、ほかのところもいろんな  
部署が関連してると思うんですが、ここに書かれている内容は、関係部署に渡して、  
渡してというか提示してその部署から「推進してまいります」とか、「いろんな検  
討します」とか、「努力します」とかって書いてあるのですが、その辺りも踏まえ  
て書かれてるのか、もしまだ言われてないのであれば、ぜひ言っていて、せ  
っかくの意見なので反映してもらえたらと思うのですが、如何でしょうか。

○議長

いかがでしょうか。

○事務局

この回答につきましては、中央公民館の話であったりとか、観光のこととかも  
ありますので、そういう部局のほうと話して考えております。

○議長

よろしいですか。ほかいかがですか、何か、お気づきのところとか。

○委員

1の2番なんですけれども、観光客の誘致につなげることによりって、・・・  
課としましては、どのようなことを提案、中で内部の中でいろいろ考えてらっし  
やるのかなということ、やっぱり聞きたいと思います。なかなかこれ高砂市は  
人口が減ってるし、人を呼び込んでっていてもなかなか、いろんな場所がない  
とかいろんなことが出てきてると思うんですけれども、その文化スポーツ課とし  
ましては、私たちの意見もいろいろ言ってきたんですけれども、これからどん  
なふうの内容ですね、中身を提案しながらそれを実現していく方向にもってい  
きたいとお考えなんですか。

○議長

どうでしょうか、ちょっとなかなかその担当課だけで答えにくいところもある  
ような気はしたんですが、今答えられる範囲で結構でございますので、要するに  
過去政策とか云々という話になってくるとちょっと文化振興だけでない部分も、  
ただ先ほどちょっと申し上げましたように観光と文化というのは結構今や密接に

関係ある分野、特にイマウンドなんか見てもそれぞれ日本の文化を知りたいという体験したいというものも多いということも聞いておりますので、そういった意味では非常に関係はあるわけなんですけども、もう少し幅広い政策になるとなかなかちょっと担当課だけでは答えにくいところがあるかもしれません。

#### ○委員

今の文化振興だけでは難しいということで、例えば1ページの、2ページの遊休地の問題とか、3ページやったら、私なんか地域におるもんですからウオーキング、これため池なんかをウオーキングやっとするんです。それとあと文化祭とかいう話もありますよね。そうなったら今委員が言われたように文化スポーツ課だけでは難しい部分ですよね。ほかの課もあっていく、そういったことをまとめてどこがチェックというか、やっていけんのかという、それがないとため池のウオーキングでも結構人が集まるんです、ええと思うんです。しかしここで言うたって難しいことやしね、あれは産業振興課かな、その辺との関連をどうしていくのか、そこをどうこないしたらええでっていう指導とか、そういうところの、市役所全体、市の行政全体としてその辺の統括、何かまとめ役みたいな、そこ言うたらウオーキングにしる文化祭のセッティングにしる、全体のことがすっと通じるか、そういう組織って言うたらオーバーかもしれないけど、そういったものが何か出ないと、ここだけでぐちぐちやってたい部分、ちょっとそんな気がするんです。

#### ○議長

まずパブリックコメントに対する回答として、先ほど委員のご質問ともちょっと関係あると思うんですけど、まずそこちょっとお答え、ご回答いただいて、それから委員が言われた総合的な政策的な観点ということについては、むしろよろしければ部長からも一言いただければと思いますが、いかがでございましょうか。

#### ○事務局

文化振興に関し、文化スポーツ課のほうもいろんな事業をやっておるんですけども、当然文化スポーツ課だけではできないと思いますし、今回この見直しをするにあたっていろいろ考えていたときに、・・・自身やっぱりいろんなことがそれぞれパブリックコメントに載ってることとかも、ほぼ網羅されてたとは思っています。改めて見直ししても、いろんなことが網羅されておるんですけども、やっぱりこれをやっていくにあたっては、今は市のみとか単独ではなかなかできないと思うんです。やっぱりここでこれからどうしていくんかという、いろんなところと連携していかないと前に進んでいかないなと思ったので、この見直しにあたって、一応重点項目で連携ということのをこれからはそれが必要なと思って、重点項目という形であげさせてもらいました。やっぱり今後いろんなことを進めていくにあたって、今回のこの中で文化芸術、観光とも連携すると書いてますけ

ども、それだけじゃなくっていろんな団体とかさまざまなところと連携していかないと、ちょっとできないなと思ってるんで、それをこれからちょっと力入れて何かやっていきたいなというふうには考えて、今回見直しをするにあたっても感じたことですし、それを行っていきたいなというふうに思っております。

○議長

ありがとうございます。事務局、よろしければ。

○事務局

市内部の関連でなくて、また3月・・・と言いますか、いろんな団体との連携とも必要となっておると思います。この基本方針をもとに毎年実施計画ですか、そちらのほうで担当の部署がどこであるとかいうことも確か表示しながら1年進めばどれぐらい進捗したかとかいうようなそういう評価もしておりますので、今後も関係部署、関係団体との連携の中でこの事業を推し進めていくべきであると考えております。

○議長

はい、ありがとうございます。多分事業レベルでは常に委員会でもモニタリングをさせていただいておりますので、各課側の関係といったことはよくおわかりだと思うんですけど、多分委員がおっしゃったり、あるいは委員がおっしゃったのは、もうちょっと政策方向的な、もう少し幅広いのといいますか、もうちょっと総合的な観点でどうなのかという、多分ご質問で、例えば文化観光戦略本部のようなものがあるのかっていうのがあれば。非常に多分明確、例えばですよ、そういうようなものがあれば明確なんだけどっていうこと、そういった組織的なものっていうのは、今のところまだ行政内部では考えておられないということですか。

○事務局

現在でいうとやっぱり文化スポーツ課が中心となって・・・。

○議長

やっぱりちょっと課レベルで調整するのは精いっぱいということですね。何かぐいぐい推し進めていくようなそういったものではまだ今のところないと。

○事務局

本来はもうちょっと太い道筋を示してということになろうかと思うんですけども、ちょっとそこまで申し訳ないですけども、至っていないというような状況です。

○委員

今も事務局も調整という言葉が使われてたし、事務職は連携という言葉が使われたよね。連絡調整ではなくて、もう一つ上のレベル、そういう組織の中でもう一つ上のレベルで調整とちゃうな、まとめるというか、そういう組織があったらもっと具体的に動くんじゃないかなという、理念としてはいいと思うんで。

○議長

そういったご意見があったということで、今後これをなかなか部、課レベルではなくって、市長なりあるいはもうちょっと行政の上のほうのレベルでの一つの決断もいるところがございますので、こういうご意見があったということは、ちょっとまた教えていただいてと思います。委員どうぞよろしく願いいたします。

○委員

関連して2ページの12番。石の宝殿、観涛処。石の宝殿、観涛処これは国の史跡指定になっておりますね。文化庁の関係になっている、それでこれから整備されていく上において、予算なんかも国、県も関係してくると思うんです。そういう点で先ほど委員からもいろいろ文化スポーツ課だけではなくということをおっしゃいました。ですから横の連絡もよくとっていただいて、ここに12番に市の文化振興基本方針はよくまとまっている、こういうように市民から評価されているんですけども、その中身についても書いておられるように、広報誌をはじめさまざまな媒体を活用し、これで市民がパブリックコメントを寄せられた方が満足できるような回答になっているのかどうか、その辺も含めて総合的にこのさい考えていただきたいです。非常に大きな課題になってきていると思うんです。その点よく行政内部で調整をとって、教育委員会と調整をとっていただきたいとこのように思います。

○議長

ありがとうございます。先ほどご指摘ありましたように教育委員会との連携というところは多分これ教育委員会との関与ですね、つまり国の史跡等になっている場合における予算の措置などが多分あるんだろうと思う、私もちょっとそこまでは詳しくは中身は見てないんですけども、あるだろうということでございますので、そういったところでのかかわり合いで、特にこのパブリックコメント、12番のパブリックコメントは、PRというところに注目されていると、この人はPRって書いてあるんですけども、努めるということだけでいいのかっていうこういうふうなご意見、2つちょっとご意見があったかなと思うんですけども、前半部分と後半部分についてちょっとご意見、事務局のお考えをお示しいただければと思うんですけどいかがですか。

○事務局

高砂市の文化資源、石の宝殿、観涛処等々、歴史文化など、非常にその辺は強みであると思いますし、すばらしい文化がたくさんあるんですけども、それらをどれだけ市民の方が知っているのか、多分知ってもらわないとまたそれがすばらしいものってわかってもらえるんですけど、それも知ってもらうというのが大事かなということで広報活動は非常に大事だなというふうには思っています。市の広報誌等はじめ、いろいろPRのほうは進めておるんですけど、今広報のほう



でもこれから広報していくのは大事ということがありまして、12月に「高砂市広報戦略」という冊子を新たに策定しまして、今後いろんな広報に努めますってということで、広報課のほうでもそういう活動をしておりますので、当然教育委員会との調整もそうですし、また広報等とも連携していろいろなものを、広報においても文化についてもPRをしっかりと市民の人に知ってもらいたいなというふうに思っています。

○議長

よろしいでしょうか、ありがとうございます。どうぞ、委員お願いします。

○委員

パブリックコメント（意見）の結果の、9番から14番の「観光とガイド」に関するところですが1年前から観光交流ビューローが募集した「高砂市観光ボランティアガイド」が立ち上がっていますし、一方、約10年前から「高砂歴史ガイドクラブ」が活動しています。又、今年に入って、「石の宝殿研究会」が市民の手で立ち上がり、石の宝殿の研究やPRに力を注ぎたいと10人ほどが活動を始めました。

先日より、上記3グループの有志を対象に文化財課の主催で『高砂市文化観光ガイド講習会』が開かれています。その中で講師の方から「現在の観光客入り込み数100万人を200万人に予定している」との説明がありましたが、この数字は市庁舎内で共有している数字ですか？又、そうであれば、具体的に集客のためにどの様なイベントなり祭りなどを計画されているかお聞かせ願いたい。現在、正月の鹿嶋さんや、他の神社への初詣、春の鹿島川、日笠山等の花見、9月の萬灯祭や向島のナイトイリュージョン、各神社の秋祭りなどが主な集客の柱になっていると思いますが、入り込み数をその倍にしようとするれば、現在の工楽邸周辺の整備や曾根の旧入江家などの改修、生石神社だけではとても無理だと思いますが、市になりビューローではどんな事をお考えになっているのかお教え願いたい。

○議長

先ほどおっしゃった200万人というのは、これはどこのレベルで決められるんですか。

○委員

石の宝殿ガイド講習会の講師の方から聞きました。

○議長

観光入込客数という意味ですかね。

○委員

その講習会のときにやりまして。

○議長

むしろあとで情報がおわかりであれば。

○委員

そのときに質問すべきやったんやけど、それむちゃくちゃごっつい数字やなどいうことは言うたんやけど、具体的にどんな形でというのは聞かなんだので。

○議長

ちょっともしそのおわかりであれば、ちょっと違う課なのでね、どういうベースでつくられたのかがちょっとわからないと思うんですけども、何かもし。当然おっしゃったように観光入込客数になってまいりますと、観光資源がどうなのかってなってくると、ここであげられている石の宝殿ですとか、さまざまないわゆる文化資源を活用してということになるはずだと、であれば例えばそういったところについて、どこまで文化スポーツ課がコミットしたのかということにも多分かわかる話だと思うんですけども、何かそのあたりもし情報があればお願いできますでしょうか。

○事務局

先ほどの具体的な数字の目標とかというのはちょっと文化スポーツ課のほうでは全くちょっと把握してないので、またちょっと持ち帰らせてもらって、調べてみたいと思います。

○委員

ボランティアガイドとして我々のグループで年間約2,000人を案内しています。それが今の体制で倍の要望があっても、とても対応仕切れない。また、年齢も上がってきますから。それに道路、駐車場、トイレ、休憩所、土産店などの整備が不可欠だと思います。

実際、現実的な「観光客入り込み数」とその為の計画、対応等を聞かせて欲しいと思います。

○委員

あの今のお話なんですけれど、数字で目標をあげるのは簡単なんですけど、そのやっぱり一つ一つの地域の祭り一つにしても、今やっぱりかなり盛んであるというのも地域の方々のものすごい努力、もちろん高砂にいらっしゃるわけでよくご存じだと思うんですけど、一つ祭りをしようと思ったら半年前から男の方々も公民館に集まって、それこそずっとずっとずっとお世話を、お世話係の方々それから自治会のほう、それから青年団のほう、大変な人手とか労力とかあつての祭りであり、それで他地域から来てくださってる、それもやっぱり安全ということを考えますとそちらのほうの動員もしなきゃならないとか、また若い子たちがどんどん少なくなったりとか帰ってきてくれたにしてもなかなかヤツサもあげる力もなかなか揃わないとか、地域は地域で非常にいろいろな取り組みの中で悩みも抱えながら頑張っておられるわけで、もちろん祭りの募金もどんどんと徴収がありま

す。その中で数字だけあげるんじゃないくて、それならそれでやはり財政的な負担面その支援というものがないと、やはり大変なものがかかわってくる、それが負担になってくるのは地域の方々にかかってくると思うんです。そのあたりのこともちょっと考えて発言していただくなり、計画していただくなり、あるとありがたいなと思いますけれど。

○議長

はい、ありがとうございます。最初私が申し上げたように文化振興というのは単に文化だけではなくって、まちづくりですとか観光ですとか、そういったものに非常に幅広くかかわるといふところの観点でまたそうなる以上はやはりそれなりのご予算措置なども必要ではないかと、このようなご意見だと思っておりますけれども、委員いかがですか。

○委員

委員からガイド不足と言われたんですけれども、100万から200万に増やすということは、トイレの不足、それから飲食店もありません。だからいろんなところをもちろん委員が言われたことも大事なんですけれども、その根本になる呼び込めるためにはその・・・施設というのが必要であるということが、検討課題として入れていかないと、ただ単に人数を増やしてまちが潤うかっていうところではないといふところですね。やっぱりこれ各課の連携というのが、早急に必要なんではないかなと思います。そこら辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長

ありがとうございます。ちょっとなかなか文化振興の枠組みを超えてまちづくりですとか、観光人口とかの戦略の話も少し出てきてます。副委員長もおっしゃったのは、ある意味まちづくりにかかわる話、お祭りなんかっていうのはまさにまつりごと、まちづくりにかかる話でございますので、そういった部分に文化というものが非常に密接に関係あるということを改めてちょっとご指摘いただいたことかなというふうに思ひます。そういう意味では事務局のほうから連携調整ということは、事務局レベルの話はできるんですけども、委員なりあるいは委員なんかもおっしゃったように、もうちょっと戦略的な枠組みというののもあってもいいのかなというのにも意見があったということで、ちょっとまたなかなか一つの課だけでできる話じゃないこと、議論が出てきてますけれども、文化を基盤、高砂市の持つてゐる強みである文化を基盤とした何らかのまちづくりなり、あるいは観光なりということの可能性はあるんじゃないかということが非常に大きく指摘されてますといふことは、このパブリックコメントもそうなんですけれども、またもう少し行政レベル、大きな意味での行政の政策のあり方として、お考へいただければというふうに思ひます。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか、何か、ご意見等ございますでしょうか。委員何かいいですか。

○委員

さっきの人に来てもらうっていうところなんですけど、こないだ竹田城址のある竹田の方とちょっとお話をしたことがありまして、竹田城もすごく人が来るようになりましたねっていうことをちょっとお話ししたときに、まちがつまらなくなりましたっていう、そういうようなお話をされたのがすごく印象に残りました。僕も竹田城址っていうのは好きで、もうずっと最初に行ったときって本当に素朴な感じで、山のぼって本当の山城だなんて、絵を描く人で結構あそこで絵を描いてる方がいらっしやいまして、僕が最初に行ったときも頂上の天守閣の上で絵を描いてる方がいらっしやって、遠くから、東京かどっかから来たっておっしやってましたけど、いらっしやったんですねなんていう話をしてたんですけど、聞いてましたら、人はたくさん来るようになったんだけど、石垣が崩れたとか、大変なことになって、今見たらちょっとあそこにあがりたくないなっていう気分がするんです。何か道もロープはっちゃったりして。昔はああいうことはなくって、本当の山城のよさっていうのを残してたんですけど、そんなお話をしながら、言ったらそういう話題になったんですけど、やっぱり人に来ていただくのは非常に結構なんだけど、その前に受入体制、有名になって人が来てくれて、お金が落ちていいなって、そのかわりもともとそこが持っていたよさっていうのが失われていく、町並みのよさっていうのが失われていくっていうのはいかがなものかなっていうのを、ちょっとその方とお話をして感じましたんで、やはりどういふのかな、そのあたりも文化、市の文化を発信していく上で、考えていかなければいけないのではないかとこのことをちょっと感じました。ちょっと発言させていただきました。

それともう一つなんですけど、これはちょっとお尋ねしてみたいと思うんですけども、石の宝殿の話が今出ておりました、生石神社。ちょっと前に塩竈と宮崎の逆鋒ですか、あそこで三奇っていうお話がございました。こないだ市の美術展をしたときも三奇のパンフレットが出ておったのですけども、あの取り組みはこれからどういふふうに発展をさせていかれるおつもりでしょうか。ちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長

最初の部分はある意味実際こういうパラドックスはほかでも指摘されているところですよ。竹田城址もご存じのとおり、私が観光政策の補助金を県のほうで出した委員会やったときに、そのときも竹田城の地元から申請がありまして、そのときほとんど観光客が来ないと、知られていないと、何とか観光客が来るための、あのときは確か自販機にカバーをつけると、その要するにカバーといってもです

から、当時の雰囲気壊さないようなカバーをつけて、雰囲気をつくりたいと、こんな申請をされてたというのが10年以上前の話ですけども、そんな話があって、そのころはほとんどあまり来られてなかった、知る人ぞ知ると施設だったわけですけども、1枚の写真から一気にブレイクしてっていうのはよくご存じのとおりだと思います。そういう意味で受入体制等々が十分整備されていないまま、わっと人が来てしまったというのは、おっしゃったとおりだというふうに思います。このあたりは実はパラドックスというのがあって、言われているところでございまして、これについてはやはり注意しなきゃいけないところだろうというふうには思っていますが、まだ高砂の場合は多分それ以前、そこまで人は来てくれない、だから200万にする、じゃあ200万にするんだったらそのための体制はどうなのか、委員がおっしゃったファシリティといいますか、トイレとかのファシリティもそうですし、それから受け入れをするための人的資源を提供しているボランティアだったり、まちの人への対応をどうなんだというこのあたりのご意見は非常に重要なことだろうというふうに思っています。

それと先ほど出ました日本三奇ですか、その取り組みについてということなんですが、それはいかがでございましょうか。

#### ○事務局

日本三奇は、日本三奇観光パートナーシップというものを結んでおりますので、言われました宮城県塩竈市の四口の神竈と、宮崎県高原町の天之逆鉾と、高砂の石の宝殿についてはイベント等では、日本三奇観光パートナーシップに基づいてイベント等でPRしていこうというふうに計画もあがっております、以前事業を行ったこともあります、それについては今後も継続してやっていく、継続となっているんですけども、どうしていくのかというのは事業の見直しをしていくと、見直しをしながら継続をしていくという方向です。

#### ○委員

アスパ高砂で、市の広報の画面見てると、その今の三奇を詳しく画面で説明してるね。市の広報でね。それとその最初の観光の増えるの話、例えば熊野古道とか、山辺のみちは非常に人が増えて、どっちが先か知らんけど、非常に整備された。それはうまくいってる例で、増えてるし、整備がしてると、風情も残してると思います。だからああいうふう、どういうふうにしていったらいいのかちょっとわかりませんが、やっぱり風情を残しながら人を増やすという方策があるかなと、お金がかかるでしょうけども、多分。

#### ○議長

ありがとうございます。委員先ほどのご質問へのお答えをよろしかったでしょうか。その継続するっていうことについて。

#### ○事務局

それと文化スポーツ課ではこないだも美術展始まったんですけども、一応そこで観光コーナーとか設けてまして、石の宝殿でつくった製品とか、あとちょうど日本三奇のパンフレットとかもありましたので、展示しましたところ、結構パンフレットとか持って帰っておられました。その辺こちらもできる限りPRのほうを進めていきたいなと思っております。

#### ○委員

せっかくそういう3つの地区でつながりっていうのがそれをしようっていうのがあるんでしたら、高砂の石の宝殿も、本当に市としても誇れるものだと思いますし、竜山石の歴史なんか見てましても、ただそういうの何かうまく発信していけたらなとそういうふうに感じましたので、お尋ねしました。よろしくお願ひします。

#### ○議長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか、いろいろとパブリックコメントのお話を中心にいたしまして、文化を中心とした取り組みということから幅広く出てまいりました。特にちょっと後半部分は観光ですとかまちづくりといったことへの対応というところですね。委員のほうからは熊野古道のあれは世界遺産に登録されてる部分ではございますけども、例えば世界遺産だと富士山なんか今度逆に登山者を制限するという方法もあったりするということで、さまざまな、先ほどおっしゃったもとななる文化を殺すわけにはいきませんので、ではどういうふうにして形でいかしていくのかっていうことについて、文化の側面からも発信していかないといけないかなというふうに思った次第でございます。

何かほかによろしいでしょうか、はい、どうぞ。

#### ○委員

最近高砂市では宮本武蔵、こないだ米田が生誕地だっていうことで大学の先生が、学者が調べた結果、間違いないというところまで達してるんですけど、米田の一部の人が宮本武蔵伊織祭りというのを10年、もう中止してしまっって10年あまりになりますかな、残念なことだと思うんです。それはなぜ中止になっってしまったのかと言いましたら、やっぱり予算面、市が全くそれを認めないというような方向で、少数のメンバーが資金集めで、30年ほど続けられましたか、残念ながらその当時の方が高齢化してしまっって、活動できないということになっって、今一部文武両道っていうことで、武道なんか総合体育館でやっっておられるんですかね。それにみなくなっってしまったということで、その宮本武蔵から逸脱してしまっったっていうような感がある。これは残念なことだと思うんですけども、その辺で市の取り組みとして、せっかく学者がいろんなところから研究したら美作でない米田だということがはっきりしてきてるというそういう事実を踏まえて、

今後どう取り組んでいくのか、この会議に関係がないのかもわかりませんが、もしあれば、復活していきたいと思うんです。

○議長

もし、何か、私その辺情報知らないのですが、もしあればお願いできますでしょうか。

○事務局

平成24年に武蔵伊織まつりは終わってたと思うんです。先ほどおっしゃったように、武蔵伊織祭りということで、武蔵伊織剣道大会というのをやっているのと、あと高砂市施設利用振興財団のほうで、文武両道ということで、剣道大会や絵画展と書道展をやっております。表彰式もされ、文化的な活動のほう・・・続けてやってもらっているところだと思います。それと当然市のほうとしても、武蔵より高砂市のゆかりの人物ということで、どんどんそれは広めていきたい、知ってもらいたいなというふうに思ってますんで、文化スポーツ課としては、高砂学・活動編ということで、武蔵が残した二天一流の体験教室をしております。その武蔵の体験教室も続けてやっていってますので、講座とかは新聞ではなかなか取り上げてもらえないですけど、活動編ということで、募集を新聞でも取り上げていただいております。毎年募集記事とか新聞等を出してもらってるので、その辺で一応こちらも広める形は続けて、継続してやっていきたいなと思ってます。武蔵をより、高砂市ゆかりということは広く市民に知ってもらいたいなというふうに思ってます。

○委員

それと関連しますけども、ことし発行する東はりま文化子午線に、宮本武蔵伊織は、高砂の生まれであるということが書かれまして、掲載予定になってます。

○委員

子午線っていうのは、・・・。

○委員

この間ちょっとお配りいただいた文芸誌ですね。

○委員

確かあの方は顕彰会の会長だったですね。

○委員

はいそうです。

○議長

よろしいでしょうか。

○委員

今の関連なんですけど、委員は学者とかが米田生誕で間違いないというようなことが出てきているからと言われましたが、宮本武蔵が結構有名な美作生まれで

はなく本当に高砂であるなら、きちんとしたもっともっと力入れて一つの柱としていけると思うんですけど、市の見解というか公式な立場としては宮本武蔵は高砂生誕だと認めてるのですか。認めてるにしてはあまりやってないと思うし、少しあやふやで市としては実際はわからないということで、されてないのか、その辺はいかがですか。

○事務局

認めるとかそんなのではないと思います。要は3つ説がありますから、高砂と美作と太子町と3つありますんで、それはそれぞれいろんな説があって、皆さん学者同士でいろいろ見解があるんだと思うんですけども、それを別に市が認めるとかそんなのではないかなと思うんですが。

○委員

いやだから、市が認めるというか市は諸説はあるが、高砂市は前から宮本武蔵は高砂市の出身だということできてるのならあまりにもPRをされていないのではと思うのですが。

○委員

子午線の文章はね今の3つの説がありますよと、でも高砂ですよという文章です、内容はね。それと吉川英治が悪いんですね。ほんとかうそか知らんけども、高砂に来たらしいですね、取材に。あんまりいい待遇しなかったみたいですよ高砂は。うわさではね。それで向こう行って向こうは手厚くもてなしてくれたから、やっぱり向こうを舞台にしたという説もあるんですね。向こうはやっぱり吉川英治様々ですから、まちをあげてお金使ってやっています。

○委員

その辺がね、高砂市、お金を使うときにはどんっと使ってほしいなと思いますよ、市民として。

○議長

逆に言うと美作よりも高砂はいろいろもっと売るのがもっといろいろあるので、宮本武蔵だけじゃないところもあるので、それに頼らなくてもできるということも言えるのかもしれませんが、そこはいろいろとあれなんでしょうね。

○委員

今お金言いましたけども、高砂市に文化振興のためのお金とか、文化財保存のための予算みたいなね、あるんですか、その管理の分か。

○事務局

予算はおいてます。

○委員

おいてんの。文化振興の目的、具体的じゃなくてね、文化振興のためとか、文化財。



○事務局

予算の分配の話であれば、要は文化財保護っていう予算は教育委員会なんです。それで文化振興にかかわる経費というのはいわゆる文化スポーツ課のほうで予算をおいて、当然文化振興のためにいろんなイベントを当然うちますから、そのイベントの経費であるとか、あとそういった高砂でふるさと文化財っていうのを認定していったるんですけども、そのふるさと文化財は教育委員会が認定をしてそこに文化財の碑を竜山石でつくった碑をつくって、予算を文化スポーツ課において、そういった碑をつくってPRに努めるとか、そういったやりとりを今やっているところです。

○委員

ほんでね、今聞いているのは、だから行政は悪くないわけじゃないんですけども、何か過去にあったものの維持管理的なことを使う場合が多いわね。今意見が出るのは、今あるものの中で、やっぱりこれは大事なもんだと、いう形での新たに何かこうしていった、それこそ振興するために指定して、そっちをお金を使っていくというような、そんなようけもろとんやったらそっちも使こて。

○事務局

いや、ようけは設けては。

○委員

あえて金額は聞きませんが、あんまり多くないとは思わ、多分何千万ももうてないとは思うからね。

○事務局

例えば文化会館、文化スポーツ課というのは文化所管ですけど、そういう文化活動の拠点をおくだけでも年間何千万というような予算はあります。ハードの面とソフトの面ということでは、ソフトの面はやっぱり何かがあってつぎ込めるんですけども、具体的じゃないとなかなか予算をつけれないというところで、つかみではなかなかおけないです。

○議長

まさにそのつかみの部分がないので、ですから事務事業ベースではここでいつもモニタリングさせてもらってますので、またその中でこういった部分にもうちょっと重点化したほうがいいんじゃないかというご意見を賜りながら、調整していくのが今のところ行政の進め方です。恐らく委員がおっしゃっているのは例えばどうしてもそうすると翌年まわしになってしまうから、先ほどでいうと一種のつかみで、文化振興ってもうちょっと大枠の例えば予算がついていて、それがもう少し自由に配分できるのであれば、非常に機動的な文化振興ができるんじゃないかと、多分こういうご意見だと思いますけど、ちょっとこれはなかなか方針として出しにくいので、先ほど言いました通常この文化振興審議会は事業のモニタリングをしますから、そ

のときにでもまたご意見いただいて、何かいい方法が考えられたら、そこから出ていかないかなと思いますけど。

#### ○委員

今もご意見が出ましたけれども、現在あるもの、それから昔からの遺跡とかそういうもの、こんなものがありますよ、もちろんいいんですが、それこそ東京、銀座とか大阪、難波なんかもどんどん変わってきてますけれど、海外の方がやってきて、本当に実際に体験しておもしろいと、何かそういうところへんをやっぱりももっともって考えていけたらいいなど、例えば宮本武蔵やったら宮本武蔵になってみようみたいな、忍者屋敷的なところ、お店なんかでも本当にどんどん例えば忍者的なお店だったら、お部屋に行くまでに非常にトリックがあって、お料理なんかも非常に工夫されていたりとか、また城崎のほうでも浴衣を貸し出して、町並みを歩いてそういう体験ができるとか、またどこでしたっけ、陸橋ですか、鉄道、機関車ですか、トーマスの機関車を走らせて陸橋のところをばっと走ってるのをよくユーチューブなんかでも、フェイスブックとかでも見るんですけど、マニアの方は写真を子ども連れで撮りに来られたりとか、何かこう体験してたのしいっていうものがあると、それをどんどんネットにあげてくださって、やってくださるようなところも、方々もたくさんいらっしゃいますし、何かそういう体験してたのしいというそういうものが高砂にはないのかななんて思ったりもするんですが。どんなもんなんですか。

#### ○議長

確かにこの高砂市のアンケート見ると、体験とか文化活動をしたという人は少ないっていうのは一つ特徴的なところで、極端に少ないわけでももちろんないんですけども、必ずしも多くはないという意味で申し上げてるんですけども、全国的に見て、別に極端に少ないわけじゃもちろんないんですけどね。

だから例えばそういう意味ではもうちょっと文化振興の側面からそういう、委員は観光客のこともおっしゃったんですけど、もうちょっとそういったような体験ができるような、空間がないのかなと、先ほどの宮本武蔵を売り出すにしても、史跡がありますというだけではなくって、そういう体験なり何らかの見て、触れて、体験できてというのが今の観光の一つの流れになってますので、そういうことができないかというこういうご意見かなというふうに思います。

ちょっとこれはなかなかお答えはすぐには出ないと思いますけれども、多分恐らく委員のようなご質問に対してありました、例えば史跡の竜山石でつくってますよっていう、これは今やってらっしゃることだと思えるんですけども、そういういわばさっき言った保存であるとか、その場でのこういったものがあるよっていう拠点を示すだけじゃなくって、もうちょっとアクティブな何か方法はないかという、こう

いったご意見かと思えますけど、何かもし観光課で、文化振興としてあれば、文化スポーツ課としてあればお願いします。

○事務局

先ほど宮本武蔵の分については、先ほど説明しました高砂学・活動編、宮本武蔵が残した二天一流の体験教室を文化スポーツ課で実施し、実際体験してもらっておりますし、やってもらった、体験してもらった方は非常に喜んで帰ってもらってるんですけども、ただ体験は人数がそんな大勢の人数はできないので、十何人かしかできてないので、その辺があまり知られてないところなのかなと思っているんですけども、こういうところは人数少なくてもどんどん続けていって、知ってもらいようなことは継続していくことが大事かなというふうには考えてます。

○委員

そうですね、例えば伊賀上野の忍者屋敷もね、あれはしょっちゅう観光客がくるから継続してできるわけですけども、宮本武蔵の場合はそういうイベントのときに、やる以外に方法はないんかなと思いますよね。

○議長

ありがとうございました。ちょっとはい、どうぞ。

○委員

先程の宮本武蔵の生誕の件ですけど、高砂市が認めてるというか、高砂市として生誕であるという考えを持ってるところからそこに遺跡があったということなんですけど、何か米田の人だけが盛り上げてやってるというイメージが米田以外の人には見えて市というよりも、米田がその辺でちょっと地域でワァワァじゃないですけど、言うだけみたいな感じが少し見えたので、多分市民全員が宮本武蔵の生誕地が高砂市やという認識になってないんじゃないかなという意味で、もう少し宮本武蔵生誕地のPRの仕方がないかなということを考えていただきたいなと思いました。

○議長

ありがとうございました。大体ご意見、はい。

○委員

先ほどふるさと文化財の話が出てましたけど、ふるさと文化財も我々まち歩きしとったら、ようけふるさと文化財として登録したらええのになというところがようけあるんですが、まだ数本しかたってないって、あれは地元の人が盛り上がって、その要求をしないと、できないと思うんやけど、こういう制度があるからどんどん請求してくださいというようなPRなんかをもっとしていったら、教育委員会も・・・こっちからするもんやとわからん。そういうことをもっとPRして町中にはこんな宝があるんやでというのを市民の人に知ってもらえるように、もっと広めていけたらいいかなと思います。

○議長

ありがとうございました。ずっとご意見も賜りますとなかなかパブコメとちょっと違うところも結構かなり関連しまして、話が広がってまいりまして、特にかなり施策の部分についてもご意見もいただきました。やはり施策部分についてはまた先ほども言いましたように、事業ベースでまたモニタリングをさせていただきますので、そのときにもご意見を、特に先ほど委員がおっしゃったような、せつかくあるこの制度をどう広げていくのかとか、このあたり非常に重要なご指摘かと思しますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

ちょっと時間がもうありますので、引き続きまして、この文化基本方針について、先ほど言いました、これちょっと重要なところでございますので、ご確認をしていただきたいというふうに思ひます。

まず事務局のほうで何度かやりとりは、させていただいているとは思ひんですが、今出してる、テーブルの上に置いてあるのが今の出してる最終案ですね。でございますので、これについてご説明のほうをお願ひをしたいと思ひます。特に修正部分を中心にお願ひしたいと思ひます。

#### ○事務局

それでは資料3が高砂市文化振興基本方針の改訂版で、資料4は概要版でございます。まず資料3のほうですけれども、この改訂版につきましては、パブリックコメントでいただきました意見とそれとまた事務局のほうで修正した部分を含めまして、その資料で網掛けした部分に変更した箇所でございます。この網掛けの部分を中心にご説明させていただきます。

まず改訂版の1ページの趣旨の部分につきましては、パブリックコメントを踏まえ、指摘があった箇所の文章を網掛け部分を修正しております。

2ページをめくっていただきまして、4の設定期間の表現のところですけれども、平成25年度から平成34年度とあったのを平成25年度から10年間という表現に改めました。

またページをめくっていただきまして、4ページ、第2章高砂市における文化の現状と課題においてということで、まず1としまして、国の動向について記載をいたしました。それと2のこれまでの取り組みの部分につきましては、パブリックコメントで指摘があった箇所の文章を網掛け部分を修正しております。それと3の文化を取り巻く課題につきましては、前回素案のほうにつきましては意見を箇条書きで記載していたんですけれども、課題のとらえ方につきましては人それぞれ違いもあるというご意見もいただきまして、個別の意見については記載せずに市民アンケート等で指摘がされているという形で表現をさせていただいております。市民アンケートにつきましては、巻末の資料編で抜粋と結果の総括のほうを掲載しまして、これを参照していただくという形に直しております。またこの課題につきましては、

引き続き変わらず課題 1 から課題 5 の 5 つの課題があるというふうに認識はしております。課題 1 の文言については一部修正をかけました。

6 ページ、7 ページの基本理念につきましては、条例に沿うものとして修正のほうはございません。

ページめくっていただきまして 8 ページ、9 ページで取り組みという送りがなの表記のほうの指摘があった部分を直しております。それと 9 ページの下の重点項目、他分野との連携の文章のところ修正をいたしました。

次 13 ページでございますが、主な取り組みの注釈の部分につきまして、主な取り組みのうち点々で囲っている部分、市以外の事業としていたものを市主催以外の事業に表現のほうを直しました。またその施策 1 の文章の中で、伝統文化だけではないということで、伝統文化等というふうに等を追加をいたしました。

ページめくっていただきまして、17 ページの 2 の 2 の 9 の部分です。郷土料理や地元の食材の前に高砂にくてん、高砂あなご等の明記の文言を加えました。また、以前は承継とだけしか書いてなかったんですけども、そのあとに活用も加えました。

19 ページにつきましては、活動をよりわかりやすく文化活動という表現に修正をいたしました。それと 19 ページのこちらのほうには載ってないんですが、今の現行の基本方針で 3 の 1 の 1 ということで、鑑賞、創造、発表への主体的な場ということで、市民の参加という記述があったんですが、ここは市の施策ではなく、進捗管理も困難であったために、削除をいたしました。3 の 1 の 8 ですけども、企業主催行事だけではないということで、企業等と団体主体行事などもあるために、企業のあとに等を加えました。あと全体的に余白部分に写真、新しく写真を掲載のほうをいたしました。

31 ページ以降の資料編のうち、38 ページに諮問書と、本日審議していただきます答申案を掲載をいたしております。

40 ページには基本方針の改訂の経緯、41 ページに高砂市の文化施策等のあゆみを書いております。42 ページからがアンケートの抜粋について掲載しておりますが、アンケート項目にあたるのは市の条例、市の行事についての質問については削除をしております。

49 ページ、50 ページでアンケートの調査結果の概要をつけ加えるということにいたしました。

続きまして資料 4 で改訂版の概要版をご覧いただきたいと思います。基本方針改訂版の概要版を作成することにいたしました。内容につきましては、趣旨、目的、位置づけ、設定期間を、次のページで基本理念と基本目標、それと基本目標の重点項目を記載しております。それと次のページで基本目標、基本施策、施策の方向の

体系図を掲載しております。次のページに基本目標のイメージ図それと文化振興の担い手のイメージ図、それと基本方針の推進について記載をしております。

このたび基本方針の改訂版につきましては、このたびは見直しのために以前はカラーでつくっておりましたが、白黒のA4版で作成しまして、概要版につきましてはA3の二つ折りの色紙で作成する予定にしております。

資料の2のほう戻っていただきまして、資料2の答申書の案をお願いいたします。これは改訂版の答申書の文章案でございます。平成29年8月31日付高諮第11号で諮問のあった高砂市文化振興基本方針について、当審議会において、アンケート調査及び市民の意見等を踏まえ、さまざまな立場の委員による視点で議論を重ねてきた結果、別添基本方針（改訂版）（案）をまとめましたので、ここに答申いたします。基本方針の見直しにあたっては、重点項目を設定し、主な取組を明記するなど、より実効性のあるものとしました。なお、この答申に基づき、引き続き「文化を大切にし、ふるさとを愛する人が集うまち高砂」の実現に向け、文化振興によるまちづくりに関する施策を着実に推進されることを要望しますというふうにしております。

説明については以上でございます。

○議長

ありがとうございました。3つの資料を使ってのご説明でございましたので、どこからでもいいんですが、まずはこの改訂版の基本方針のところですね、これについて修正箇所を特にご説明いただいたわけでございますけども、そのあたりでのご質問それからそれ以外でももうちょっとこのあたりも強調したらいいんじゃないかとか、そういったところがあれば、ご指摘いただければと思います。いかがでございましょうか。まずちょっとこの本編ですね、こちらについて、ご意見を賜りたいと思います。いかがでございましょう。お気づきのところどこでも結構でございますので。

○委員

質問はどこでもよかったですね。アンケートの表、例えば3の4の表なんですけど、この応答数、度数それからパーセント、それからケースのパーセントってあるんですけど、これ度数とかいうのは専門用語じゃないんですか。他に応答数とか。

○議長

そうですね、何かもし説明が必要であればどっか説明を入れときましようか。

○委員

説明というか、応募者数とかわかりやすい言葉に変えた方が良くはないのですか。

○議長

もしあれだったら回答数とかでもいいかもしれませんね。

○委員

また、何か度数というのはどういう意味なのか、パーセントとかも 100.0%と 204.2%とあり、わかりにくいです。

○議長

統計用語であることは間違いありませんが、度数っていうのは。

○委員

あとケースのパーセントのケースという言葉もどういう意味なんだというふうに思い、ちょっと素人ではわかりにくいかなと思います。

○議長

要は度数というのは回答数ですね、特に複数回答MAっていうのは複数回答なんですね、マルチアンサーなので。複数回答ですと回答者 477人の方が例えば複数答えた場合、ですから例えば先ほど見ていただいた 42 ページの表の 3 の 4 でいきますと、477人の方が 968 件の回答を出していると、つまりお一人大体 2 件ぐらい回答しましたよということだと思えます。その応答数のパーセントというのは 968 件に対しての比率です。それからケースのパーセントは 477 人に対する比率ということになります。ですから、確かにぱっと見た目はわかりにくいということであれば、ちょっとどこかで説明を入れるような形でしたいと思います。確か報告書のほうは多分説明が入ってたと思うので、その文をちょっと抜粋、少し引き抜いてどこかに入れていただければと思います。注のほうでもいいと思うんで。

○委員

調査結果の総括に関してですけれども、アンケート調査結果の総括のほうにこの 3 の 4 の表に書いてあるんですが、重要ではなく回答者は 60.0% 占めてると思います。ケースのパーセントで入れ込んでいるんですね。そうするとなかなか 100% ではこちらのほうの頭っていうのは判断しやすいので、こここのパーセントの出し方ですね、100% の与え方をしたほうがいいんじゃないかなと思うんですけれども、その点に関してはいかがでしょうか。私たちがわからないのは私たち・・・わかりにくいということなんです。200% だから倍の計算なんですけれども、その辺がちょっと。

○議長

だからこれ、変な話なんですけど、鑑賞した文化芸術がないというのは、1 点しか回答がないわけなんです。つまり鑑賞した方は 2 件、3 件答えを出したとしても、ですからそこら辺ちょっとそれを想定しての出し方はしてるんですけどね。

○委員

鑑賞された方の数にあわせての%のほうが、何か・・・思うんですけど。

○議長

ちょっとそこは修正を少し、それで事務局に確認をして、修正させていただきます。ありがとうございます、ほかいかがでしょう何かご質問とかご意見とかお気づきの点とか。ちょっと事務局のほうからあえてなくしましたよっていう基本的にはなくすことよりもむしろ加筆が多いんですけども、あえてなくしましたよというこういうちょっとご指摘があったのが19ページのところでございまして、施策例の表のところです。もし前のこれをお持ちの方はちょっとこれの17ページを見ていただきたいんですが、もし前の当初のやつをお持ちの場合は17ページを見ていただきたいんですが、これが同じところなんです。17ページのところが施策例で同じ部分になるんですけども、これは文化を基盤に市民、団体、市との連携という部分で、施策の方向性としては活動発表の場などの拡充ということになります。先ほどご説明がありましたように、行政としてはこういう場をつくることは、もちろん行政としての役割があるんですけども、いわば1番にあったのが、鑑賞、創造、発表への主体的な参加というのがあったんです。これを外しましたっていうのが先ほどのご説明だったわけです。これについて私は確かに行政の立場からすると、主体的な参加をどう促進するための、だけどモニタリングが必要になってきますから、政策として強制的に参加させるわけにはいきませんので、いきませんので、そうすると具体的にこれ何ができるのか、主体的に参加する方法って何ができるのかっていうと、なかなか実は難しい、特に民間がやってるものに対して補助を出すということも限界がございまして、なかなか難しいところがあると、場所をつくることは行政として補助などの可能性は十分あるんですけども、この人の行動をコントロールっていうのはなかなか、今実はそれがコントロールできるよっていうのが、今ノーベル賞とった経済学賞とったような議論ですけど、それはちょっと今別の話として考えられるんですけども、なかなか実際には難しいだろうということで、これは外しますというのが事務局のご提案だったんですけど、これについて、特に今日ここにお集まりの方々にはむしろそういった主体的な参加を促進したい側だというふうに思いますから、ちょっとこれについてご意見賜りたいなというのが少し私としてもあります。行政なんかを研究する立場からすると、先ほど事務局がおっしゃっていただいたような、なかなか政策として打ち出すと具体的に何ができるのか、事業レベルで何ができるかってなかなか難しいと、いうことで外したいという気持ちはわかるんですが、ちょっと今日お越しの皆様方はむしろこういう鑑賞、創造、発表への場への主体的な参加、市民の参加を促進したい側だろうというふうに思いますので、ちょっとこれを外すことについてなかなかご抵抗もあるのかなとちょっと思いまして、意見を聞きたいというふうにちょっと思ってたんですが、いかがでございましょうか。特に副委員長の意見をちょっと聞きたいなと思ってたんですけども。

○委員



ちょっとレベルが違うかも知れませんが、公民館で今コンサート活動を始めさせていただいておりました、無料でということで、入場人数なんかも限られておりますので、整理券も発行しまして、整理券をとりにきていただいて、満席という形で、打ちどめという。あとで問い合わせのあった方もお断りする状態でやったやったと喜んでいたんですが、実際に当日あけてみますと、席がたくさんあいてるという状態。今度4月にする際には、それこそ名前も書いていただいて、チケット番号と名前と連絡先を書いていただいて、来れなくなった場合には返却してくださいという文章も添えて、納得の方は整理券をお渡しするという形をとらないといけないとか、その動員ということでは非常に難しいなというのも実際に感じているところでございます。そのあたりも本当にどうしていったらいいのかなと教えていただきたいような気がするんですけど。

○議長

確かに恐らくおっしゃったように、それぞれの団体がさまざまに主体的に参加する場をつくったとしても、実際に参加に至るようなものっていうのはなかなか具体的にどうすればいいかというアドバイスなどはなかなか得にくくて、勝手にやっているってちょっと表現は悪いんですが、それぞれが皆さんお考えになってやってらっしゃると、そのあたりをアドバイスをいただいたりということがあると、もう少し参加が増えるんじゃないかなと、多分そういうようなご意見かなとは思いますが、いかがでしょうか、何かほかにもちょっとご意見があれば。

○委員

結構チラシもまかしていただいたり、市のほうもご協力くださったり、いろんなところに置いていただいて、PRは広報にも載せていただいたり、PRのほうはしていただいているんですけど、そこらあたりですね、市民参加、市民側の動きがどうであるのかなというのは。

○議長

実は、それも行政の側も感じたので、だからこれなかなか施策にかけないということで外したというのが、まさにおっしゃられるところなんですけどね。

ただこれ方針から抜いて、これは具体例なんで別にこれが載ってないからいらないということではもちろんないんですけども、載っていると何かやったのかっていうことを問われると、いうこういう議論になってまいります。ですからそういう意味では、これは例なので外すこと自身にもものすごく不利になるというわけではもちろんないんですけども、先ほど言ったように皆さん、そのあたりでご苦労されてるところもあるのかなと思ったもんですから、ちょっとご意見を思ったもんですから、私だけではちょっとなかなか判断できんなと思ったもんですから。

○委員

でもこれって大事ですよ。主体的な創造発表の場の展開だけでは果たして市民が本当に主体的に活動し、参加していく意欲を持っている市民をつくるというところにはいかないと思うので、やっぱり何かちょっと文言を挟み込んだほうがいいようにも思います。

○事務局

イベントをうつにあたっては、当然、よく集客が見込めない場合は積極的な広報活動をしなさいよというのが、原則的な話になるんですけども、市としての役割としては、当然、今副委員長から言われたように、市のホームページ、広報誌それと公式フェイスブックっていうものもあります。そういう形で事前に情報さえ提供していただければ事務局のほうとしては、その事業を市民に周知するという形は、とれなくはないので、そういったいろんな媒体を活用するというのであれば、マスコミを利用したりとかっていうところもありますので、早目に情報をいただければ、そういった形で積極的なイベントの周知は可能だということになってきます。また情報をいただければ協力させていただきます。よろしく願いいたします。

○議長

ありがとうございます。具体的な対応策というのは先ほどおっしゃっていただいたとおりだと思います。

○委員

そのぐらいでいいと思うんですけど。文章を加える必要はないと思うんです。

○議長

ないんじゃないかと、これで大丈夫だと。実際具体的なレベルをちゃんとやってくれてるということですね。

○委員

だってここの皆さん、その気でやってるわけですから。それはわざわざうたわなくても協力してもらえるわけだし、と思うんですけどね。

○議長

大丈夫ですか。わかりました、ありがとうございます。ほかいかがでしょうか、もしなければ、先ほど委員がおっしゃったように本来国が、行政が先ほど言ったバックアップはしていただくことが間違いなければ特に政策では書かなくても大丈夫かなというこういうご意見でございますけれども、よろしいでしょうか。委員はちょっと書いといたほうがいいんじゃないのっていうこういうご意見もあるんですけど。

○委員

それは構わないんですけども、話からもよくわかるんですけども、でも情報さえもらったら協力するっていうのは市の方針がっていうのはまたちょっとこれなってくると違うだろって、これを省略するために、すみません、市民の要

望にこたえながらやっぱしそれは情報もらって初めてするのではなしに、そういう場の委員たちもいろいろ頑張っただけで自分たちがやっただけで、やられている中で、いかにそれを相談に乗りながらやっていくかという今、やはり主体的なものって誰だって、市が主体的な部分になるのかってなってくるちょっと意味合いが違うんじゃないかなと思うんですけれども。ちょっとこれ難しい問題なので、委員長どうですか。

#### ○委員

以前は市ですか、文化会館ですか、主催という形で若い演奏家を育てるコンサートなどもしてくださってたんです。もちろん予算のいることですから、それもできなくなったのかなというふうに感じている次第なんですけれども、できれば文化、芸術を盛んにしようとする高砂市であるならば、若い子を育てるという言葉も何回も出てきてますので、年に1回ぐらいはそういうコンサートづくりを本当にしてほしいなど、それこそ美術展のところで演奏させていただきたくなくて、ごく限られた人だけになってしまいますので、結構若い子が育ってますので、そういうコンサートを市が主催となって、やっていただきたいなと思います。

#### ○議長

そのあたりは実際には施策の方向性の中に一応書いてはあるので、いわゆる・・・多分おっしゃったとおりでいいと思うんですけれども、要するに施策の中で自主的な参加というものの、施策的にはなかなかつけにくいということなんで、そこはさっきも委員がおっしゃっていただいたように、市がバックアップするということは、間違いなければ我々はちゃんと自主的にやるよということを書いていただければ、これは外してもいいのかなと思います。ただ、委員がおっしゃったように、その市民の主体性というのほどここに書いてほしいなというところがあるというのであれば、基本政策の3の文章、本文のところですね、本文中に、実は市民団体等の文化活動に関してはその自主性や創造性、多様性を尊重しながらと書いてあって、その自主性のところに主体という部分をちょっと込めてはいるんですけれども、例えば団体等が主催すると、あるいは主体的に行う文化活動に関してとはかね、何かそういうふうな文言をちょっと入れることで市民たちが主体的にやるんだよという部分を補強するということは可能かなと思うんですけれども、そうすれば施策例に載せなくても主体的に参加してねっていうことが出てくるかなと思うので、もしそういうような文言の調整でよければ、文言の調整で委員のある程度ご意見が反映できるのであれば、・・・させていただければと思うんですけれども、よろしいですかね。ちょっとレビューよろしいですか。その上の部分ね、施策の3の第2パラグラフのところで、表現すれば、恐らく施策例に載せなくてもいいんじゃないかなと思いますので、そこら辺の調整をちょっとお願いできますでしょうか。ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

ちょっとごめんなさい、この部分ちょっと気になってたので皆さんのご意見をあえてお伺いいたしましたが、ほかにもしお気づきのところとかあればご指摘をお願いいたします。

○事務局

一応ある程度見て細かい部分を直すのは載せていったんですけど、13ページのところで、伝統文化等というふうに等を追加はしてたんですけど、ちょっと施策の方向1は、伝統文化などと、平仮名になってますので、これ全部平仮名に直そうかなと。

○議長

それはもう直しておいていただけますか。なるべく書き方の統一性だけをお願いいたします。13ページですね。施策の方向1のタイトルのところは伝統文化などになっていて、丸ぼつのところですね、地域の歴史に関する講座の実施や伝統文化等になってるんで、ここはなどという形で統一したいということです。こちら辺は文言のところはお願いします。

○事務局

それと48ページの文言のところでグラフを入れ込んでいますが、ここは鹿島神社、多分これやまどりだったと思うんで修正します。

○議長

どこですか。

○事務局

かしま神社の嶋が島に。

○議長

そうですね。すみません。ちょっとこの字はね、字の調整をお願いいたします。これは私のほうのミスですね。ありがとうございます。

○委員

鹿嶋神社の古い鳥居には山のない「島」が使われています。

因みに、鹿島中学校、鹿島川、鹿島扇平自然公園もこの「島」です。

聞くとところによると、北山の鹿島神社との差別化を明確にするため、いつの頃からか山鳥の「嶋」を使う様になったと聞きました。

○議長

これは多分やまどりのほうだと思います。おっしゃるとおりです、すみません、ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか。何かご意見。

○委員

今後の検討課題ということで、できれば市の方に調査いただきたいんですけども、パブリックコメントの17番にも若者文化にもっと着目しというような項目がございますけれども、実は高砂を舞台にした「よつばと」という漫画がござ

いまして、ご承知でございますか。結構漫画の中に高砂の景色が、高砂神社であったり、高砂高校であったり、それが結構ちりばめられてるんです。実際には高砂だけではなくて、東京の練馬とかと半々にごちゃごちゃにどこの市だか、架空の市がベースなんですけれども、そこで暮らす5才ぐらいの女の子が、元気に過ごしていくっていう非常に良質な漫画で、2、3年前に手塚治虫の漫画大賞というのも受賞してて、何百万部も売れてる有名な漫画なんですけれども、インターネットで例えば「よつばと、高砂」と検索していただくと、その舞台になった、絵になった、漫画の絵の舞台になった舞台を聖地巡礼みたいな形で若い人が回っているようなので、ホームページなんかでは結構あるんです。実は高砂の商工会議所からその「よつばと」の作者さんの所属するアスキーメディアワークスという会社にアプローチを試みたことがあるんですけれども、なかなかガードがかたくて、行政のほうから1度これいいなと思われたらアプローチの方法を考えていただいて、「よつばと」というのは実は若者に非常に人気があるものですから、今後の市の観光資源といいますか、あるいは作者さんが高砂ゆかりの方でございますので、そういうことで何か今後の観光、漫画も最近は文化といわれてますので、文化に役立てないかなということ、ちょっとご研究をお願いしたいので、よろしくお願ひいたします。

○議長

いかがですか、ちょっと私もそのタイトルは聞いたことがあるんですが中身はよくわかってなかったんですが。

○事務局

新聞等でこちらも把握してましたし、手塚治虫文化賞大賞をとったときにもいろいろ検討したんですけど、なかなかどうしたらいいものかなというのはこちらにも迷っているところです。

○議長

先ほどおっしゃったその聖地巡礼というか、いわゆる若い人たちが舞台となったところをまわってくる、特に最近だと君の名はかな、アニメになりました、ああいうので、聖地巡礼先というのはすごく観光の一つのブームになっているという確かにそういった部分はあるので、なかなかこれを行政がどこまでバックアップできるかというのはちょっと難しいところはあるわけですが、もしその作者の方がゆかりの方であれば、何らかのアプローチはできるんじゃないかというふうなご提案かと思うんですけどね。

○委員

多分作者の方は今は高砂出身で東京にいらっしゃると思うので、弟さんかお兄さんかが小松原で保険代理店されていると。

○議長

そうですか、詳しいですね。

○事務局

どう接触できるのかなと。

○委員

出版社経由でアプローチしないといけないと思うんですけど、商工会議所からのアプローチではなかなか戸をひらいてくれなくて。

○事務局

全くのシャットアウトな状態ですか。

○委員

それに近いですね。

○議長

アプローチの仕方、例えばよくわかんないんですが、例えば加古川市なんか加古川観光大使に任命したいんですがってことでアプローチするわけですよ、あそこは。何かそういうふうなアプローチの仕方があれば、何かできるかなとは思いますが、多分おっしゃったように難しいと思うので、何らかの理由がないと行政でも証拠がないと難しいかなと思うんですけどね。

○委員

「よつばと」1度ご覧いただいてからで、もちろん結構なんですけど、神戸市の長田区なんか鉄人28号とか三国志とかで漫画でまちを盛り上げるようなことをやっておりますので、高砂も「よつばと」は、いい素材になるんじゃないかなと。

○委員

高砂市の人を見たらわかるような。

○委員

わかります。高砂の人が見たら、これあそこやってわかるような漫画ですので。

○委員

「よつばと」ってどんな字。

○委員

平仮名です

○委員

よつば。

○委員

よつばと。と、というのは一緒にという意味で、よつばちゃんっていう女の子がいますね、それとという意味で「よつばと」

○議長

そういうタイトルです。

○委員

「よつばと」というタイトルです。

○委員

「よつばと」ふーん。

○委員

それで高砂との関連を調べようと思ったら、「よつばと」スペース高砂ぐらいで検索してもらおうと。

○事務局

高砂生まれなんですかね。

○委員

そうだと思いますけどね。

○委員

生まれは荒井ちやうかな。小松原。

○委員

会議所のほうで散策マップをつくったりしようと思ったんですけども、なかなか先方のガードがかたくてできなくて、あとは会議所でやろうと思って、ちょっとこれも頓挫したのは、小学生さんなんかを通る通学路に飛び出し坊やっていうのがありますでしょう。あれを「よつばと」の絵にしたらどうかというようなことで、話が進んでちょっと頓挫したこともあるんですけども。

○議長

何かきっかけがないと難しいと思う。何かやはりそこはちょっと考えてもらわないと、先ほど申し上げましたような観光大使とかっていう制度があれば、そういうものを使うとか、それから例えば高砂市の今、キャラクターに採用したいとか、そういうことがあれば、お金が動くことじゃないと多分動かないですよ、残念ながらね。今のあれは。

○事務局

いろんな側面からちょっと検討しながら進めてはいきたいなと思います。

○委員

すみません、よろしく願いいたします。

○議長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。何かご意見等ございますか、なかなか最近のいわゆるポップカルチャーといいますか、その部分についても少し注目をされたなということだと思いますけれども。ほかいかがでしょうか。何かございますでしょうか。

そうしますと、大体今今日改訂版のご指摘があった事項について、特に字句の修正とそれから実際の今行っていることをかなり加筆するという形で進めさせていただいているわけでございます。内容的には大きな変更はありません。これはもともと10年間当初想定してましたので、5年目の見直しというのはあくまでもその情勢の変化ですとか、社会情勢の変化ですとか、どうしてもこれはつけ加えておかなくちゃいけないことがあればということだったわけですが、皆さんとご議論させていただいて、この方針をつくったときからまちづくりであったりとか、観光であったりといった、今国のほうも進めているような施策をかなり先取りしてたという側面がございます。ですので基本方針そのものについては大きな見直しはしてないわけですが、特にこの場でかなりご意見いただいたのが、現実行われていることがこれだけあるよってということはかなり言われましたので、そういったものはかなり加えさせていただいているということでございます。それから少し幅を持たせてるという部分はございます。今日もまた委員のほうから新たな素材もあるよということでご提案もいただきましたけども、ここら辺は載せると今あるかなと思ってずっと見てたんですけど、なかなかちょっとない、今のところないみたいですけども、今後考えていただければというふうに思います。

ほかいかがでしょうか。何か。よろしいでしょうか。

そうしますとこのあたり、もしこれについてご意見がなければ、あと、それから概要版ですけども、これも特に基本的には目標と考えたことを載せるということでございますけども、よろしいでしょうか。ここは特に大きな変更がなければそれでいきたいと思いますが。

これA3のカラー刷りなんですか。

○事務局

そうです。

○議長

こちらはA3のカラー刷りのふたつ折りになるわけね。こういう形で出して。

○事務局

こんな形にしたいなとは思ってます。

○議長

こんな形ということね。これは白表紙でという形になるわけですね。前はちょっとカラー刷りになって、写真も白黒なんですね、そうすると。前はちょっとカラーでつくってもらったんですけども。予算の関係もございまして。あと答申案でございまして、答申書のほうもおまとめいただきました。これは経緯をかいしていただいて、先ほど言いましたように大きな変更はないので、そういったことは書かずに重点項目を設定するなど、明記するなどという形で修正点を具体的に書かしていただいているということになります。よろしければこのあたり



で。よろしいでしょうか、特になければこの答申書の案もこのとおりでさせていただきます、それから改訂版、それから改訂版の概要版でございますけども、これについても一部訂正はございますけども、基本的にはご提案どおりさせていただきたいと思います。先ほどちょっとご指摘のあったアンケートの部分でございますとか、それから19ページの一部加筆等については事務局と私のほうで最終的に確認をさせていただくということでよろしいでしょうか。ありがとうございました。

○委員

これ日付はいつ。

○議長

日付はいつなんですかね。

○事務局

日付は答申の提出日になります。

○議長

提出日ということ。

○事務局

提出日になると思います。

○議長

答申提出日については、まだちょっと決まってないんですね。今議会が始まっちゃってますので、なかなか市長のご都合等調整していかなきゃいけないんですけども、答申の提出は次のスケジュールもちょっとあるんですけども、これは会長、委員で、それとも全員で、何かそれは特にございますか。

○事務局

なかなか全員とは日程調整が難しいかと思っておりますので。

○議長

もう会長一任でよろしいですか、そのあたりについては。そしたらちょっと日程調整は私と委員ご同席いただければ、委員もご同席いただいて、会長、委員で市長とちょっと調整させていただいて、その日が日付になるということよろしい、委員よろしいですか。はい、ではすみません、いろいろと長時間にわたってご審議いただきましてどうもありがとうございました。皆様のおかげをもちまして、基本方針の改訂ということが何とか期限内で終わる、8月からちょっと本当に短い期間で大丈夫かなと思いつつも、事務局も大変いろいろとご調整いただきまして、どうもありがとうございました。

以上で今日の主なところは終わったわけなんですけども、最後その他でございますけども、ご説明のほうお願いできますでしょうか。

○事務局

そしたら今後の分につきましてはまた答申を、市長と日程調整しまして、また会長、委員で連絡をとって・・・思っております。まとまりましたらまたこちらで印刷の作業のほうに事務局のほうで取りまとめさせていただきます。

○議長

先ほど言いましたように答申の出し方については、私と副会長で調整させていただくということでさせていただきます。それでは答申日につきましても先ほどご説明のあったとおりでございますので、それ以外何かほかに何かご質問があれば、よろしいでしょうか、じゃあ今日の予定の議事は全て終了ということでございますので、いったん進行のほうを事務局のほうにお返しいたします。

○事務局

本日は大変熱心なご審議ありがとうございました。閉会にあたりまして、副会長からご挨拶をよろしく申し上げます。

○副会長

(副会長 あいさつ)

○事務局

それではこれにて閉会いたします。皆さんお疲れさまでした。

(午前 11 時 42 分 閉会)